

資料3

授業中における一般的な具体的支援例

学習過程	支援内容（配慮事項）と具体的な言葉かけ		
事前	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をする 「どうやったら忘れ物をしないようになるかな。どうしたらいいと思う。」と自分で考えさせる。 ・どういうときに忘れないかを考えさせ、気付かせるようにする。（前日の連絡を確認する。家庭への協力をお願いする。少しでも忘れなかったことを認める。） 		
<課題解決> ・本時のねらいが分かる。 ・課題把握をする。	聞く姿勢や態度が見られない 「用意はいい？」などと声かけをする。 視覚的な教材を提示したり、興味のあるものを見せたり、児童を引き付ける工夫をする。 やることが分からない 聞く能力が低い 黒板に書いたものを読むなど作業を伴う活動も行う。 黒板に今日の課題を分かるように書く ノートに課題を書き写す。 しっかり準備できたこと、聞き方のよさ、いつもよりがんばっていることなど小さなことでも見逃さずほめる。		
<自力解決での教師の支援> ・自分で課題を解決する。 ・練習問題を解く。	考える力がある児童 <正確性・速さ・多様性を賞賛する> <ほかの児童ができてあがるまでにやることを明確に指示> ・「なるほどね。さすが早いね。」 ・「もうできたの。全部正解だよ。すごいね。」 ・「考え方の説明の仕方を、図や言葉で書いておこう。」 ・「ここをちょっと工夫すると、もう少し分かりやすくなると思うよ。どう思う？」 ・「ここが、よく分からないけど、何か方法ないかな。」 ・「考え方が分かりやすいよ。」 ・「ほかのやり方もやってみよう。」 ・「ほかの子に出すヒントを考えてみようね。」 ・「さすがいいところに気が付いたね。」 ・「なるほどね。そういうやり方もあるんだね。先生は気が付かなかったよ。」 ・「ちょっと難しい問題だけど、挑戦してみてください。きっと、君ならできると思うよ。」 ・「最後までやってみよう。このやり方をしていない子はいないから頼りにしているよ。」	苦手意識のある児童 <理解していること、困っていることの確認> <既習事項の確認> <解法への支援> ・「分からないことは何？」 ・「やることは何？」 ・「分かっていることは何？」 ・「ここまでは合ってるよ。」 ・「ここがおかしいよ。（指摘後）ヒントを出す。」 ・「落ち着いて、もう一度計算をやってごらん。」 ・「辺の長さをもう一度確かめてみるといいね。」 <できていることを賞賛> ・「ここは、よくできているよ。がんばったね。」 ・「前より ができるようになったね。」 ・「できないわけではないよ。やってみよう。」 ・「あともう少しだね。」 ・「あきらめずにできたね。」 <活躍できる場をつくる> ・合っているところを予告して指名する。 ・正解を確認したところを指名する。 <誤答したとき> ・「つまずいたことで、よく分かるようになったね。」 ・「間違いはだれでもあるよ。でも、次はできるように今やり直しておこうね。」	
	おとなしい児童	つまずいている児童	作業が遅い児童
<できていることを賞賛し、安心感を与える> ・「いいよ。その調子。」 ・「合ってるよ。どうやったか先生に説明してみよう。」 <発表へつながるように予告しておく> ・「どうやったか、まとめておいてね。」 ・「分かりやすいよ。」	<できていることを賞賛> <解法への援助> <できたことを賞賛> 既習事項の確認 ・「困っていることは何？」 ・「分からないことは何？」 ・「ここまでは合ってるよ。」 ・「一緒に考えてみよう。」 ・「そうそう、その調子。」 ・「すごい、自分でできた」	<タイプを見極め、できたことを賞賛> 慎重なタイプ ・「困っていることは何？」 ・「次は、どうしようと考えてるの？」 ・「これ、すごいね。よくできてるね。」 ・「工夫したね。ていねいだね。」	

	<p>・「みんなにも、このやり方を教えてあげたいね。」</p> <p>安心感を与える</p>	<p>ね。」</p> <p>教えるだけでなく 共に考える</p> <p>自力でできたように 思わせる</p>	<p>取りかかりの遅い児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと教えたら、すぐできるようになったね。」 ・「今、何を考えている？」 <p>集中できない児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ここまでできていて、いいね。」 ・「じっくり考えてるね。その調子。」 ・「真剣にやっているの先生は感心したよ。」
<p>< 集団解決 > ・話し合いをする。</p>	<p>いつも発表する児童</p>	<p>ときどき発表する児童</p>	<p>ほとんど発表しない児童</p>
	<p>< 具体的によい点を賞賛 > 声の大きさ、速さ、間の取り方、分かりやすさ、内容のよさ、着眼点、数学的価値などを付け加えて賞賛する。 ・「声が大きくて分かりやすかったよ。」 < 学級への貢献を伝える > ・「みんなが気付かなかったことを発表してくれてありがとう。」</p>	<p>< 発表したことを賞賛 > 発表できたときが、次への意欲増大の絶好のチャンスととらえる。 よかったところを大いに賞賛し、悪かったところはなるべく言わない。指摘は短く。 ・「今日は、がんばったね。」 ・「よかったよ。」</p>	<p>< よく聞いていたことを賞賛 > 聞き方の視点を示す。 ・「自分の考えはだれの発表と似ているかな。」 ・「自分のやり方とどこが違うかな。」 話し合いに参加できる工夫をする。 ・「分からないところで手を挙げよう。」 ・「今の発表をもう一度言える人はいるかな？」</p>
<p>< 相互交流 > 児童同士で行う質問など</p>	<p>話し方・上手な聞き方について、日ごろから指導しておく。 聞くときは、自分の考えとの相違点を考えながら聞く。 分からなくなったら、「分からない」と言える雰囲気をつくっておく。</p> <p>< 児童の考えを広げる、深めるための言葉かけ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この発表で分からないことはないかな。」 ・「分からなくなつたところで黙って手を挙げてね。」 ・「みんなが分からないようだから、ここからもう一度説明してね。」 ・「だれか、さんのをもう一度説明してくれないかな。」 <p>(先生が補足説明をしてしまうことが多いが、児童同士で補足できるようにしていく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この発表のいいところは？」 ・「ほかのと違うところは？」 ・「分かりやすいところは？」 <p>< 児童同士の意見交流 ></p> <p>< 質問 > 「 がよく分からなかったの、もう一度、説明してください。」 「 そう考えたのは何ですか。」</p> <p>< 追加・補足・整理 > 「 君の意見に付け足します。」 「 君の意見と の意見は似ています(違っています)。」</p> <p>< 意見 > 「 もっとこうやった方がいいと思います。」 「 簡単でいいと思います。」</p> <p>< 承認 > 「 ぼくは気が付かなかったから、すごいと思います。」 「 この考えは、これからも使えそうです。」</p>		
<p>まとめ</p>	<p>自分の考えをまとめるためのノートであることを伝えておく。 よいノートを見せる。 「 ノートの取り方が見やすくいいね。」 「 分かりやすいね。」 「 大事なところがよく分かるね。」 「 友達の意見や気が付いたことも書いてあるのがいいね。」 「 字がていねいだね。」</p>		
<p>振り返り</p>	<p>< 自分や友達によさやがんばりについて具体的な記述・根拠のある記述を賞賛 > その場で学級や本人に伝える。後で朱書きや認め印、ご褒美シールなどでも賞賛する。 「 なるほどね。 をがんばったね。」 「 できるようになって先生もうれしいよ。」 「 君にぜひ伝えてあげようね。きっと喜ぶよ。」 「 君が、ありがとうって言っていたよ。よかったね。また頼むよ。」</p>		